

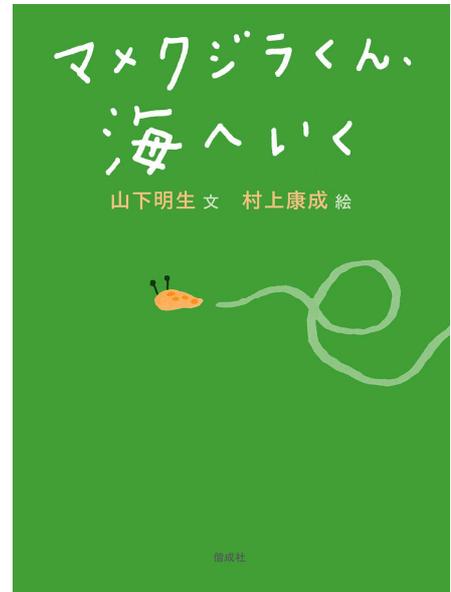
こんな本を読んできました

「クジラなのに、なめくじ？」この本の表紙を見たときの、最初の感想です。

マメクジラは、主人公のなめくじの名前です。学校の庭に住んでいるいろんなことを学び、本も書いたおじいさんがつけてくれました。おじいさんが海に住む親戚のクジラに会いに行くと言って、心の骨を鍛えるために旅に出たきり帰ってこないことをお母さんから聞いたマメクジラくんは、自分もクジラに会って、おじいさんを連れ戻す旅へ出る決心をします。

いろんな生き物に会いながら、ゆっくりと、ねばねば根性で海を目指すマメクジラくんにはらはらさせられっぱなしです。一方おじいさんは修行中と言いながら、飄々と自分の心のままに生きています。体に骨が無いなめくじの骨ってやわらかくて自由なのかも。冒険に憧れる子どもの心に、肩の力がなかなか抜けない大人の心に、「ふわり」と届く本です。

タイトル マメクジラくん、海へいく
文 山下 明生
絵 村上 康成
出版 偕成社



呉市の歴史と関わりの深い「海」に関する所蔵資料を紹介します。



海の文庫

タイトル 海のへんな生きもの事典
ありえないほねなし
文 ひとでちゃん
イラスト ワタナベ ケンイチ
出版 山と溪谷社

お仕事は日向ぼっこ。のんびりとした暮らしをする生きものがいます。その名は、タコクラゲ。光合成をする藻類を体内に共生して生きています。

この本では無脊椎動物と呼ばれる背骨をもたない動物が紹介されており、作者は愛称として“ほねなし”と呼んでいます。ほねなしは骨がないので、姿形がユニーク。再生能力が高く腕一本から再生するヒトデや、岩や木に穴をあけ生涯穴から出ずに過ごす穿孔貝。海には不思議な形、驚くような生き方をしている動物がたくさんいます。私たちと同じ地球上で生活をし、現代に適應して生き抜いています。たくましいですね。私たちに生きものとして生きるとは本来どういうことかをこの本の“ほねなし”達が問いかけてくれているようです。